

国立国語研究所学術情報リポジトリ

調査の概要

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002427

2. 調査の概要

1 喜界島の概要

奄美は鹿児島県の南に位置し、喜界島、奄美大島、徳之島、沖永良部島、与論島の5つの島からなる。喜界島はその北東部に位置する（図1）。周囲は48.6 km、集落の数は33、人口は8,090人（2010年国勢調査による）である。島への交通手段は、飛行機で鹿児島空港または奄美大島空港から喜界空港へ入る方法と、船で鹿児島港または奄美大島名瀬港から喜界島湾港または早町港へ渡る方法がある。

主な産業はサトウキビの栽培と製糖で、製糖工場は奄美群島で最も数が多い。サトウキビを原料にした黒糖焼酎作りも行われている。近年は白ゴマの生産が盛んで、国産白ゴマの産地としては日本最大の生産量を誇っている。

2010年の調査では、小野津、志戸桶、塩道、阿伝、城久、上嘉鉄、坂嶺、湾、中里、荒木の10地点（図2の下線の地域）の調査を行った。

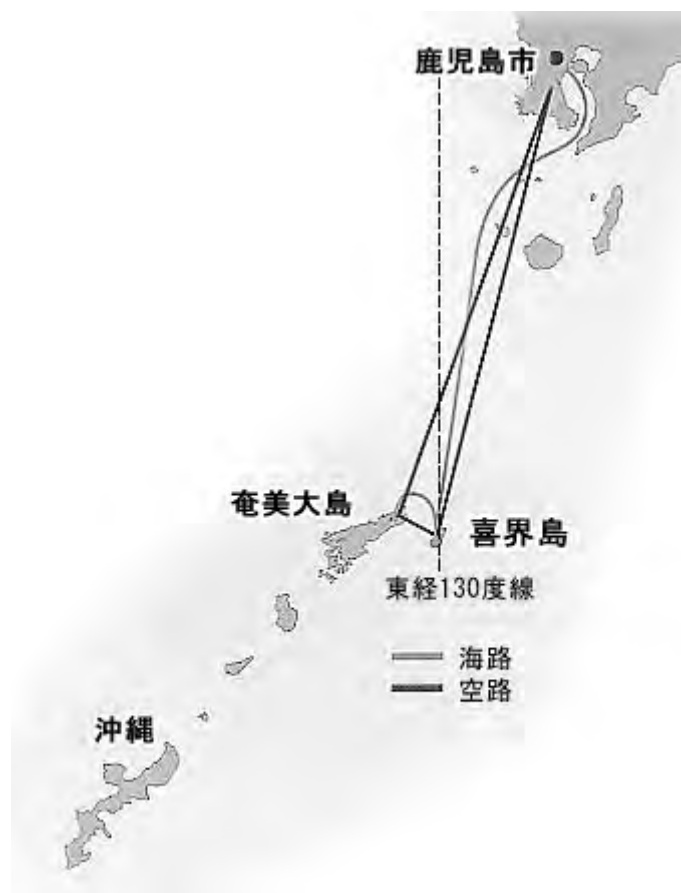


図1 喜界島の位置（喜界町公式ホームページより転載）



図2 喜界町集落一覽（喜界町公式ホームページより転載，下線は調査地点）

2 調査の概要

2.1 調査日程，調査地点，調査内容，調査担当者

調査は2010年9月10日～9月14日に行った。調査地点と調査内容，調査担当者は以下の通りである。

日時	地区名	調査内容	調査担当者
9月10日(金) 午前	小野津	基礎語彙1	小川・青井・木部
		基礎語彙2	ローレンス・仲原・平山・竹田
		アクセントA	窪菌・儀利古・ペラール・平子・竹村
		アクセントB	松森・新田・姜・高山
		文法M	松本・下地
		文法K	金田・井上・新永
		文法O	大西・荻野・當山・重野
		文法T	田窪・白田・山田
午後	阿伝	基礎語彙1	青井・小川・木部・平子
		基礎語彙2	ローレンス・仲原・平山・竹田
		アクセントA	窪菌・松森・儀利古・ペラール・竹村
		アクセントB	上野・新田・姜・高山
夜	城久	基礎語彙2	ローレンス・仲原
		アクセント	新田・重野
		授受表現	荻野
		オノマトペ	竹田

9月11日(土) 午前	志戸桶	基礎語彙1	小川・青井・木部
		基礎語彙2	ローレンス・平山・ペラール・仲原
		アクセントA	窪菌・松森・儀利古・竹村・姜
		アクセントB	新田・上野・平子・高山
		文法M・T	松本・下地・田窪・白田・山田
		文法K	金田・井上・新永・佐藤
		文法O	大西・荻野・當山・重野
午後	塩道	基礎語彙1a	小川・川瀬
		基礎語彙1b	松森・青井
		基礎語彙2a	ローレンス・平山・久保菌
		基礎語彙2b	仲原・ペラール
		アクセントA	窪菌・儀利古・竹村・姜
		アクセントB	新田・上野・平子・高山
9月12日(日) 午前	上嘉鉄	基礎語彙1	ペラール・川瀬・小川・青井
		基礎語彙2	ローレンス・平山・松森・仲原
		アクセントA	窪菌・儀利古・竹村・姜
		アクセントB	新田・木部・高山・平子
		文法M	松本・下地・竹田
		文法K	金田・井上・新永・佐藤
		文法O	狩俣・久保菌・當山・重野
		談話	田窪・白田・山田・荻野
午後	湾	基礎語彙1	川瀬・ペラール・小川・青井
		基礎語彙2	ローレンス・仲原・松森・三井・平山
		アクセントA	窪菌・儀利古・竹村・姜
		アクセントB	木部・新田・平子・高山
9月13日(月) 午前	中里	基礎語彙1	青井・小川・川瀬・ペラール
		基礎語彙2	ローレンス・松森・平山
		アクセントA	窪菌・儀利古・竹村・姜
		アクセントB	木部・高山・平子・新田
		文法M	松本・三井・下地
		文法K	金田・井上・新永・佐藤
		文法O	狩俣・久保菌・當山・重野
	小野津	談話	田窪・白田・山田・荻野
午後	坂嶺	基礎語彙1	小川・田窪・ペラール・青井
		基礎語彙2	ローレンス・松森・川瀬
		アクセントA	窪菌・三井・竹村・白田
		アクセントB	木部・高山・平子・佐藤
		授受表現	荻野
9月14日(火) 午前	荒木	基礎語彙1	青井・小川・白田
		基礎語彙2	ペラール・田窪・平山・荻野

	アクセント A	松森・儀利古・竹村
	アクセント B	木部・高山・當山・佐藤
	文法 M	松本・三井・下地
	文法 K	金田・井上・新永
	文法 O	狩俣・久保蘭・川瀬・重野

2. 2 調査者

調査者は以下の通りである。

木部暢子（国立国語研究所 時空間変異研究系 プロジェクトリーダー），大西拓一郎（国立国語研究所 時空間変異研究系），井上文子（国立国語研究所 時空間変異研究系），窪菌晴夫（国立国語研究所 理論・構造研究系），三井はるみ（国立国語研究所 理論・構造研究系），上野善道（国立国語研究所 客員教授），下地賀代子（国立国語研究所プロジェクト研究員），平山真奈美（国立国語研究所プロジェクト研究員），儀利古幹雄（国立国語研究所プロジェクト研究員），盛思超（国立国語研究所プロジェクト奨励研究員），竹田晃子（国立国語研究所非常勤研究員），金田章宏（千葉大学国際教育センター），狩俣繁久（琉球大学法文学部），下地理則（群馬県立女子大学），田窪行則（京都大学大学院文学研究科），仲原穰（琉球大学非常勤講師），新田哲夫（金沢大学歴史言語文化学系），松本泰丈（元千葉大学），松森晶子（日本女子大学文学部），ウェイン・ローレンス（ニュージーランド オークランド大学），荻野千砂子（大分大学教育福祉学部），姜英淑（東京大学 PD），小川晋史（日本学術振興会特別研究員 琉球大学），新永悠人（日本学術振興会特別研究員 東京大学），トマ・ペラル（日本学術振興会外国人特別研究員 京都大学），山田真寛（日本学術振興会特別研究員 京都大学），青井隼人（東京外国語大学大学院博士前期課程），川瀬卓（九州大学大学院博士後期課程），久保蘭愛（九州大学大学院博士後期課程），佐藤久美子（九州大学大学院博士後期課程），重野裕美（広島大学大学院博士後期課程），白田理人（京都大学大学院文学研究科修士課程），高山林太郎（東京大学大学院生博士後期課程），竹村亜紀子（神戸大学大学院博士後期課程），當山奈那（琉球大学大学院修士課程），平子達也（京都大学大学院修士課程）

2. 3 話者

話者は以下の方々である（敬称略）。

小野津 樹本トスエ（1924年生，86歳），藤元セツエ（1926年生，83歳），守内ミツノ（1926年生，83歳），巻芳江（1931年生，79歳），野村リツ子（1934年生，76歳），有岡美恵子（1935年生，75歳），田畑繁子（1945年生，65歳），吉塚廣次（1922

- 年生，88歳），上山満則（1934年生，76歳），小野優（1936年生，74歳）
- 志戸桶 菅沼トヨ（1918年生，92歳），西山モト（1925年生，85歳），向井てる子（1927年生，83歳），南フデ（1927年生，83歳），高木ミサエ（1928年生，81歳），濱川寛子（1931年生，79歳），伊牟田正子（1934年生，76歳），田中克代（1936年生，74歳），菅沼節枝（1939年生，71歳），濱田隆子（1939年生，71歳），福山富勝（1924年生，86歳），松岡博忠（1952年生，59歳）
- 塩道 谷本タダ子（1924年生，86歳），基井テルエ（1930年生，80歳），岩村光子（1930年生，79歳），萩原榮三（1927年生，83歳），柏木貞治（1935年生，75歳），藤原輝夫（1943年生，67歳）
- 阿伝 岡本敏美（1923年生，86歳），政井平進（1932年生，78歳），晶貴輝也（1934年生，75歳），麓富士男（1950年生，59歳）
- 城久 嶺久代（1929年生，81歳），習マス（1931年生，78歳），千坂チヨ子（1932年生，78歳），舞島照代（1939年生，70歳），田中セキ（1927年生，83歳）
- 上嘉鉄 盛スミ（1931年生，78歳），廣育子（1935年生，75歳），西岡恵理（1981年生，29歳），値モト子（1936年生，73歳），村上国信（1925年生，85歳），富豊西（1924年生，85歳），祐名義郷（1930年生，79歳），澄愛島（1933年生，76歳），大友勝一（1936年生，73歳），前島勇一郎（1938年生，72歳），西原光則（1950年生，60歳），生島常範（1960年生，50歳）
- 坂嶺 里安九郎（1924年生，86歳），英啓太郎（1931年生，79歳），喜久秀人（1932年生，78歳），森岡進（1933年生，77歳），松田美枝子（1925年生，84歳），体岡ユキ子（1933年生，76歳），岩松美枝（1936年生，74歳）
- 湾 喜原正子（1932年生，78歳），黒田美奈子（1932年生，78歳），中山続（1930年生，80歳），岩田進（1953年生，57歳）
- 中里 嶺倉チトエ（1932年生，78歳），平明代（1939年生，71歳），福島正子（1949年生，60歳），倉本禎彦（1934年生，75歳），時本清志（1940年生，70歳），野間直忠（1942年生，68歳），松村米蔵（1942年生，68歳），野間昭夫（1946年生，64歳），得田喜代治（1957年生，53歳），久野一馬（1931年生，79歳），恵薫（1939年生，71歳）
- 荒木 基井ヨネ（1927年生，83歳），藤伊都枝（1928年生，82歳），作井才子（1928年生，82歳），益英子（1930年生，79歳），菊豊信（1922年生，88歳），作井久吉（1928年生，82歳），登洋一（1934年生，75歳），今井守夫（1945年生，65歳）

3 講演会等

上記の調査のほか、期間中に以下の講演会等を行った。

3. 1 喜界町教育文化講演会

喜界町教育文化講演会

日時：9月14日（火）18：30～19：45

場所：喜界町役場

テーマ：「喜界島方言の特徴」

パネリスト	元千葉大学教授	松本泰丈
	琉球大学教授	狩俣繁久
	日本学術振興会外国人特別研究員	トマ・ペラール
	日本学術振興会特別研究員	新永悠人
司会	国立国語研究所	木部暢子

南 海

【第3種郵便物認可】



喜界町教育文化講演会

国立国語研の研究グループ

消滅の危機から守れ

喜界で方言調査、成果発表

消滅の危機にある方言の記録・保存するため、国立国語研究所の木部暢子副所長をリーダーとする共同研究グループが9日から喜界島で調査を実施し、最終日の14日夜に喜界町役場で研究の成果を発表した。研究者らは、古い言葉が残っていて多様性もある喜界島の方言は、日本語の歴史を解明する上で貴重な言語と位置付け、地元でも積極的に保存・継承活動に取り組むよう呼び掛けた。

研究グループは、ユネスコが消滅の危機にさらされている言語として2009年発表した調査結果で、奄美、沖縄や東京都・八丈地方の方言が危険な状態にあると指摘されたことを受け、09年から6年計画で調査研究している。来年度以降は沖縄や奄美大島でも現地調査を実施する予定。最初の調査地となった喜界島には、同研究所のほか九州大学や琉球大学多くの町民が集まった方言調査の成果発表会14日、喜界町役場

児童生徒の暴力が過去最多

いじめは減少、09年度調査

2009年度に全国の国公私立の小中学校が把握した学校内外での児童・生徒による暴力行為の件数は4年連続で増加し、過去最多の計6万913件に上ったことが14日、文部科学省の問題行動調査で分かった。中学の割合が全体の72%を占

久氏（琉球大学教授）ら4人の研究者が喜界島の方言の特徴について報告した。

研究者からは「古い言葉が残っている喜界島の方言は沖縄と似ている部分がある」との意見が出たほか、島内でも集落ごとに発音の違いがあることなどが報告された。狩俣氏は「琉球列島の交流の跡が言葉に残っているのでは」と指摘。木部氏は集落ごとの違いがどのような過程で生まれたかが今後の研究課題とし、保存継承について「使い残すのは地元の人、地元との協力関係が重要」と述べた。

喜界町教育文化講演会の記事（南海日日新聞9月15日朝刊）

3. 2 湾地区高齢者学級

湾地区高齢者学級

日 時：9月11日（土） 14：00～16：00

場 所：喜界町中央公民館

テーマ：「喜界島方言について」

講演者：国立国語研究所 木部暢子

3. 3 喜界高校キャリアアップガイダンス

喜界高校キャリアアップガイダンス

日 時：9月13日（月） 15：20～16：10

場 所：喜界高校

講演者：儀利古幹雄・平山真奈美・重野裕美

奄 美 新

【第3種郵便物認可】

この日は国立国語研究所プロジェクト研究員の儀利古幹雄さん（30）、平山真奈美さん（34）、広島大学大学院生の重野裕美さん（27）が講演。

言語を持つ音、アクセントを専門とする儀利古さんは「喜界島の方言は、ものすごい美しいアクセントで、感動している。保存する価値が高く、大切にしたい」と説明。

平山さんはカナダへの留学体験を紹介し、「人とのつながりから得たものが大きい。日本人とは何か、私とは何かと考えるようになった」と話した。

喜界高校（藤崎健一 校長、228人）で13日、総合的な学習の時間を使ったキャリアアップガイダンスがあった。喜界島方言調査のため来島した研究者・院生3人が講演。生徒たちと歳の近い「先輩」という立場から、言語学に興味を持ったきっかけから、現在進める研究、大学や留先での体験談を通して、生徒たちにエールを送った。

龍郷町出身の重野さんの中しか知らないのに「不安に思ったことを告げ、大学進学前に島へ友達ができるのか」と白。大学では友達が奄びかけた。

美について興味津々に質問してきたが、島にいなから島唄も三味線もできない自分に気がついた。今のうちに島の文化を知って、アピールしてほしいと呼びかけた。

調査で
来島
研究者・院生が講演
喜界高校

「喜界方言のアクセント美しい」



先輩として生徒たちに呼びかける重野さん

キャリアアップガイダンスの記事（奄美新聞9月14日朝刊）